令和５年度（２０２３年度）第４回東海市まちづくり評価委員会会議録

議　　題　　令和５年度（２０２２年度）のまちづくりに関する評価（施策評価）について

⑴　人づくり・心そだて（８施策）

日　　時　　令和５年（２０２３年）７月７日（月）午後２時から

会　　場　　東海市役所３０２会議室（３階）

出　席　者　　委　員：千頭聡、谷口庄一、竹内政義、木下俊春、松田剛、菅原好之、長谷川一己、大岩英明

担当部等：小島教育部長、鈴木教育委員会次長、安江芸術劇場館長兼芸術総監督

事務局：内山企画政策課長、新海主任、鶴見主任、今村主事

欠　席　者　　杉浦円、下村一夫

公開の可否　　公開

傍 聴 者 数　　０人

（内　容）

１　開会

２　令和４年度（２０２２年度）のまちづくりに関する評価（施策評価）について

事務局より施策主管課等が行った評価内容について説明

⑴　人づくり・心そだて（８施策）

３　今後の予定

主な質疑等は以下のとおり

施策１０「子どもたちにとって楽しい学校をつくる」

大岩委員：　１点目、まちづくり指標１４「不登校の児童生徒の割合」が急激に増加していることについて、継続している子どもに加えて新しい子どもが増えているのか、その他の要因があるのか。

　２点目、まちづくり指標１５「学校が楽しいと感じている児童生徒の割合」が改善していることに関して、サポーターの支援や計画的な施設の修繕により安全な学校生活が送れていることによると分析しているが、安全な学校生活が楽しい学校生活であるということを意味しているのか。子どもたちが楽しいと感じる要素は、安全性だけでなく、例えば沖縄での交流や学校の運動会などのイベントも関係していると思われる。

小島教育部長：　１点目について、全国的な傾向として、継続している子どもに加えて新しく不登校となる子どもが増加している。

　２点目について、安全に遊べることが楽しいと感じることにつながると考えている。学校の安全性や安心感が、子どもたちが楽しく遊び、友達とつながるための間接的な要因となる。施設の環境整備は、安全かつ安心して生活するために必要な整備として重要視している。

大岩委員：　昨年度の評価では、教員の研修結果を子どもにフィードバックしたことによると分析していたが、今年はハード面での分析をしており、分析の方向性が変化しているので気になった。

長谷川委員：　不登校の要因は何か。一般的な理解としては、新型コロナウイルス感染症に関連して、マスク生活による顔の見えなさ、友達との交流の減少、活動の制約や制限など、さまざまな問題が存在していると考えられる。不登校の要因がある程度把握できているのであれば、対策や解決策を検討できるのではないか。

竹内委員：　不登校の子ども達はどのように過ごしているのか。

小島教育部長：　不登校の要因については、様々な要素が関係している。アンケートによると、いじめ以外の友人関係を巡る問題や、学業の不振、親子の関わり方、無気力・不安感等で、これらが絡み合っている。また、不登校の要因が分かっても簡単に解決できることはほとんどない。行政としてスクールソー

シャルワーカーの増員などで対応しているが、増加に追いついていない現状である。

　また、学校や教室には行けなくても、市の適応指導教室や保健室で過ごしている子どももいる。基本的には家庭で過ごしている子が多い。

竹内委員：　不登校の広域的な連携は難しいのか。

小島教育部長：　これまで検討したことはないが、子どもが自転車等で通いやすいように地域の身近な場所が良いということもある。

長谷川委員：　子どもたちの目線に立って、初期の段階で心を開くことができるカウンセリングを提供することが重要である。そうした機会が整備されることで、子どもたちは前向きに生きていきたいと思い、学校に行きたいという気持ちを持つことができるのではないか。急増しているので、どうにか対応してほしい。

千頭委員長：　市としては、心の相談員やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーを設置して、手厚く対応しているし、子どもの目線に立ててないということはないと思われる。

大岩委員：　それらの相談窓口を、子ども達がどの程度活用できているのか懸念である。不登校になる前の段階で、どのような取り組みができるかは非常に重要である。

長谷川委員：　いじめ問題について、近年は悪質な内容の報道などもみるが、不登校の要因としては主ではないのか。

小島教育部長：　本市の要因としては主ではない。

谷口職務代理：　不登校の要因が変化してきている。インターネットで興味のある分野を勉強していたり、学校よりレベルの高い勉強をしたりしている子もいる。不登校のすべてがネガティブなものに由来するわけではない。新しい教育の仕組みを検討する段階にある。

菅原委員：　不登校など様々な事情で学校に通うことができない子どもたちが、タブレット端末を使って在宅で授業を受けることができるなどの取り組みはあるとよい。

施策１１「学校、家庭、地域が連携して子どもの健全な成長を支える」

長谷川委員：　成果指標１１１１「学校支援協議会の活動者数」について、どのような方が参加しているのか。

小島教育部長：　地域の保護者の方やボランティアの方などである。

菅原委員：　自分も富木島小学校で参加しており、コミュニティの会長や子ども会の会長、公民館長、さらに民生委員の方々も参加している。活動内容は、学校と相談したうえで読み聞かせやピアノの伴奏などの授業の補助であったり、学校開放のやり方であったり、地域で実施できることを話し合っている。

大岩委員：　コミュニティ・スクールについて、今年度はコミュニティとどのように調整を進めていく予定か。具体的な方向性が見えてこないなか、コミュニティと一層連携することで、相乗効果が見込めるとよいと考える。

菅原委員：　コミュニティとしては学校と具体的に協議を進めている段階ではない。以前校長先生を務めていた方から聞いたことによると、小学校や中学校で最も問題になっているＰＴＡの停滞に関して、親がＰＴＡ活動に参加する必要があるのか、それとも地域の方々に参加してもらうべきなのかなども含めて、コミュニティ・スクールを進展させていくとのことである。コミュニティ・スクールの発展を期待しているが、まだ具体的な取り組み内容や地域参加の範囲については決まっていない。

大岩委員：　スケジュールの遅れが出ないように、課題の整理を進めるとともに、学校と協力するための仕組みの検討も進めてほしい。相乗効果によって活性化するとよい。

施策１２「青少年が健全で心豊かに成長できる環境をつくる」

千頭委員長：　まちづくり指標１８「家庭で安らいでいると感じている青少年の割合」が改善したことについて、家庭内等でのスマホ等によるトラブル防止に関する市内小学校への出前教室や保護者向け啓発チラシの配布により児童生徒がトラブル回避できていることによると分析しているが、因果関係が明確でないように思うし、文脈が分かりにくい。

小島教育部長：　スマホ関連のトラブルが増加していることから、昨年度は市として注力して取り組んだため取り上げている。

千頭委員長：　要因はスマホだけではないと考える。

菅原委員：　まちづくり指標１９「青少年の健全育成のための活動に関わった人の割合」の基準値が非常に低いが、どのように算出しているのか。この設問に回答した人として、本人の主たる取組として関わっている人は含まれていると思うが、それよりは希薄だが何かしらの形で関わっているような人は含まれておらず、抜け落ちてしまっていると推察する。

伊藤統括主任：　平成２４年度に実施した市民アンケート結果より算出している。めざそう値は、この数値を基に関係各所に聞き取りを実施して設定した。

千頭委員長：　「青少年の健全育成」という言葉は、隠れてたばこを吸っている子どもに対する指導など、昔からのイメージが根強い。言葉の意味合いが不一致のように感じる。

小島教育部長：　子ども達の見守り活動に変化してきている。

施策１３「マナーが守られ思いやりにあふれる地域をつくる」

大岩委員：　１点目、評価コメントに「年齢が上がるにつれて低下する傾向」とあるが、何か根拠となる資料や文献があるのか。

　２点目、まちづくり指標に関して、これまで一度も対基準値で改善していない。事業の見直しなどを検討するべきと考える。

小島教育部長：　１点目については、明確な根拠はない。指標の年代別の動向等から分析した。

　２点目については、行政として効果的な取り組みがあまりないことが現状である。

大岩委員：　まちづくり指標として設定したのであれば、その指標を達成するために何が必要かを常に見直しながら取り組むことが重要である。

施策１４「楽しみや生きがいを感じるまちをつくる」

大岩委員：　基準値からの低下が続いている状況について、その要因分析が適切に行われているか疑問である。講座の内容による要因、例えば興味を引くような講座が不足しているなどの可能性も考えられる。大河ドラマのテーマに合わせたものなど、時代の流れに即した講座などがあれば、世代を超えて

魅力的だと考える。

小島教育部長：　専門の方ではなく市民の方に講師をお願いしていることもあり、同じ方にお願いするとその方の得意分野に寄ってしまう場合がある。また市の特色として細井平洲関連の講座も実施している。

大岩委員：　細井平洲を取り扱った講座では、細井平洲が深掘りされていないように感じる。市の特色を売りにするのであればもう少し特色を出せるとよい。

千頭委員長：　施策の評価に関して、対基準値で評価するのであれば「横ばい」ではないと考える。所管課によって評価の判断基準が異なっている。

松田委員：　単位施策は良くなっているようだが、まちづくり指標の動向をみると「順調でない」と考える。

施策１５「だれもが気軽にスポーツを楽しむ元気なまちをつくる」

竹内委員：　公園の散歩もスポーツに含まれるのか。

鈴木教育委員会次長：　スポーツ推進計画を策定する際に、日常的に身体を動かす行為は全てスポーツであると整理している。

千頭委員長：　その基準はアンケートを回答する人に伝わっているのか。

内山企画政策課長：　設問に「ウォーキング、軽運動を含む」と注記している。

長谷川委員：　まちづくり指標２３「スポーツを実践している人の割合」は５０％を超えていて、十分な数値であると考える。「順調」でもよい。

大岩委員：　基準値やめざそう値は、市がある程度達成の見込みを立てて設定しているである。その評価指標に基づいて市は評価しているのだから、評価委員会で別の基準を設けて判断するのはいかがなものか。評価コメントの内容については、指標の達成に向けてどのように取り組み、その結果どうなったかが記載されるとよい。成果動向は「順調でない」と考える。

菅原委員：　指標の動向をみると、基準値とめざそう値を結ぶ線を一度も上回っておらず、まちづくり指標２３も基準値と比較すれば改善していないため、「順調でない」と考える。

施策１６「文化に親しみ心豊かなまちをつくる」

千頭委員長：　成果指標１６２１「市の文化施設で行われる文化・芸術事業への参加者数」は改善しているが、まちづくり指標２４「文化・芸術活動を行っている人の割合」が改善しておらず、成果指標とまちづくり指標に乖離が見られる。このことに対してどのように分析しているか。

安江芸術劇場館長：　芸術劇場では、人づくり・まちづくりの一環として、子ども達が対象の事業が多い。子どもたちが親になったときに、また次の世代の子ども達のための環境を作るため、短期的な取り組みではなく、長期的に進めていることから、すぐ数字に表れるものではないと考えている。成果指標１６２１「文化・芸術事業への参加者」が改善したことについては、開館当初は集客も難しい状況だったが、コツコツと取り組みを積み重ねてきたことで結果が表れはじめていると考える。集客だけを目的に、即時的に数字だけを上げるのではなく、劇場と市民の信頼関係の構築など骨太な取り組みができている結果と捉えている。

菅原委員：　「文化」の定義は人によって捉え方が異なる。大田や横須賀は数値が高いがそれ以外の地域では低くなっていることもあるし、市民がどのように文化に触れ合えているのかあまり見えない。市民が文化にどのように関わっているのかを明確に捉えられるようなアンケート内容であれば、分析しやすい。

大岩委員：　１点目、よしもと新喜劇と名古屋フィルハーモニー交響楽団の演奏を毎年定期的に開催しているが、親しみやすい演目や曲目の内容になると入場者が増えるのではないか。

　２点目、プラチナ会員の登録者数の動向はどのようか。

安江芸術劇場館長：　１点目について、難しいものを選んでいるのではなく、ネームバリューに捉われず、知名度は低いが芸術劇場で開催するのであれば良いもの、素晴らしいものだと思ってもらえるように事業を行なっている。また芸術劇場においてだけでなく市全域へ波及させるために、学校へのアウトリーチや劇場で開催するコンサートへの招待なども継続し、長期的な視点で取り組んでいく。

　２点目について、１０００前後で推移している。宝塚を開催した年に先行抽選目当て増加することもあったり、減少する年もあったりする。

千頭委員長：　芸術劇場としての思いや取り組みの方向性が市民に伝わるようなＰＲができるとよい。

施策１７「郷土の歴史や文化を大切に継承する」

千頭委員長：　まちづくり指標２６「15歳～３０歳の若者のなかで、伝統文化を継承している団体に所属している人の割合」について、どのような団体が対象か。

小島教育部長：　まつり関係や万歳保存会など、伝統文化に取り組んでいる団体が対象である。

千頭委員長：　小学校や中学校の部活が廃止されていくなかで、文化的な活動の受け皿がスポーツと比べて少ない。機会創出が重要である。

菅原委員：　盆踊りの参加者が減少している。大府市では、小・中学校の授業で盆踊りを取り扱っており、伝統文化の継承などに繋げていると聞いた。東海市の小学校でも伝統文化を学ぶ授業の枠があるが、現在は授業数の調整で削って欲しいと言われており、発表にも至っていない。コミュニティにも協力できることがあると思うので、子どもたちが伝統文化に触れ合う時間を上手に授業に盛り込んでいただけるとよい。

松田委員：　施策評価は「順調でない」ではないか。まちづくり指標に地域差があるという点で、全体的に評価するのであれば、順調でないと判断した方がよい。